

令和4年度 学校評価

	自己評価	学校関係者評価
I 教育理念	農協の相互扶助の精神を受け継ぎ、理念、目的、目標、到達度など学生要覧や建学の精神に示している。今後も教育理念は変わらず運用していく。	自己評価を承認
II 教育目標	本年より新カリキュラムが開始された。全学年の教育目標の評価を実施した。ほぼ8割程度が目標を達成している。今後は、教育における卒業認定方針(ディプロマ・ポリシー)、教育改定編成・実施方針(カリキュラムポリシー)、段階別教育目標の内容を評価検討していく。	自己評価を承認
III 教育課程・経営	カリキュラム進捗計画に沿って進行できている。学生にも進捗がわかるように、学生要覧、シラバス、進捗表、年間時間割などの配布や掲示、説明をしている。教員の教育・研究活動の充実については、授業や実習業務が重なっていることより、教員間で協力し時間確保に努めている。また、実習施設の指導力向上を図るため、教員と臨地指導者との合同会議を実施し、教育環境を整えている。臨地指導者の各研修紹介や参加協力を継続している。	自己評価を承認
IV 教授学習評価過程	授業内容や展開プロセスなどの評価・検討は日々の業務、カンファレンス、カリキュラム検討会で行っている。学生が学習をわかる喜びへと発展していける工夫を検討している。また、思考を求める授業や実習においては、新カリキュラムよりルーブリック評価を取り入れた。教員は各研修会に参加し、教授内容・授業方法についての研鑽に努め、改善を図っている。	自己評価を承認
V 経営管理	専任教員の確保は、規程数(8人以上)は満たしている。実習と学内指導の兼務型であるため、ソフト面の充実のためにも人員確保をし教育体制を整え、業務改善を検討している。また、ハード面の課題があり、安全で充実した学習環境に向け検討している。	専任教員においては、高齢化しているとのことであり、先細りしないよう計画的に採用に取り組んでください。また、ハード面においては、令和6年度の新校舎開校を期待しています。
VI 入学	今後18歳人口は減少していく。静岡県西部地区の減少は緩やかではあるが、危機感をもって対応を考えていきたい。年々受験者数が減少傾向にあり、令和4年度の入学人数は定員に満たなかった。次年度は入試日程及び受験科目等検討し、入学人数確保に努めていく。	入学生確保のために、学校側も推薦指定校枠を拡大するなど対策を講じているが、少子化が進んでいるため更なる定員確保対策を講じてください。
VII 卒業就職進学	国家試験は、全国合格率を上回り、過去3年間としては100%である。また卒業時の到達状況は教育目標1と2が高値傾向を示し、自己理解・他者理解とともに、対象である生活者としての人間への興味関心を持った学びをしている。卒業生の成長や活動状況などは、各厚生関連病院の報告より把握している。	自己評価を承認
VIII 地域社会国際交流	看護総合IV(広域看護活動)において、国際看護を教授している。海外看護活動経験者の講義を依頼している。地域活動としては、看護師希望者の進学相談会への参加や関連病院・近隣クリニックなどの行事運営などのボランティア参加を引き続き継続的に実施していく。	新校舎が浜松市の中心部へ移転することで、より地域交流が盛んになることを期待します。例えば、新校舎施設を一部地域に開放するなど検討してみたらどうですか。
ix 研究	日々の教育実績の評価・まとめを次に活かしていくように、教員の研究活動の意識向上、研究活動時間・環境の整備を検討している。今後は、関連病院や施設との共同研究も視野に入れていく。	自己評価を承認

※看護学校評価委員会 令和5年5月30日 場所:本校会議室  
 委員長 森川友子 (看護学校経験者)  
 委員 松井陽子 (卒業生)  
 委員(代理)森田宏美 (JA静岡厚生連遠州病院看護副部長)  
 委員(代理)疋田百合香 (厚生連本所:管理部看護師確保・教育担当看護部長)

事務局 藤田美保子 (学校長)  
 深田兼司 (事務長)